

【アゼルバイジャン経済トピック 109 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 11 月 1 日

黒海海底送電ケーブルの敷設計画

アゼルバイジャンからヨーロッパ方面へ、石油(BTC パイプライン経由、地中海から積出し)、天然ガス(南ガス回廊パイプライン経由、イタリア・ブルガリアから欧州ガス網へ接続)が輸出されていますが、将来さらに電力輸出も実現するかも知れません。

現在、ジョージア電力公社及び経済・持続的発展省は、世界銀行の支援、アゼルバイジャン、アルメニア、ルーマニアの当局・電力公社との連携の下、黒海海底(ジョージア・ルーマニア間 1,100 km)に送電(1,000 MW)及び通信用ケーブルを敷設する計画の FS を行っています(本年 5 月開始、調査期間 18 か月、委託先イタリア CESI 社)。

黒海海底の送電線で想定されるのは、アゼルバイジャンからヨーロッパへの電力輸出です。アリエフ大統領は、同国にはカスピ海洋上風力で 157GW、(アルメニア占領からの)解放地域に 10GW の再生可能エネルギーのポテンシャルがあると述べ、政府要人は、この再エネ電力を①ガス代替電源とした上で余剰ガスをヨーロッパへ輸出し、または②そのままヨーロッパへ高圧直流送電することを視野に入れている旨発言しています。

アゼルバイジャンのエネルギー供給国としての重要性がさらに増す可能性のある、興味深い動きといえます。

(以上)